

産業常任委員会 管外視察報告書

1. 調査日

令和7年10月14日（火） ～ 10月15日（水）

2. 調査委員

井端 浩二（委員長）、小笠原 美保子（副委員長）、籠山、恵美子、野村 勝憲、
上ヶ吹 豊孝、佐藤 克成

3. 調査先

10月14日 ①止利仏師伝説による観光振興策について（奈良県北葛城郡河合町）

10月15日 ②薬草のまちづくりの取り組みについて（奈良県宇陀市）

4. 調査目的

止利仏師や町名の共通点による友好都市提携での交流、薬草によるまちづくりの観点から先進的な取り組みを行っている自治体及び民間団体を抽出し管外視察を行った。

5. 調査事項

①止利仏師伝説による観光振興について（河合町）

河合町は人口 16,500 人、町域面積 8.23 ㎢の小さな町である。歴史的建造物や古墳も多く残され、歴史好きな方や学生の学びで訪れる方が多い。

町内には 60 基もの古墳があり、史跡・古墳巡りの御墳印帖を集めるプロジェクトでは古墳マニアが多くリピートして訪れる。近隣町村と連携した民間でシェアサイクリング（町をまたいで乗り捨て型）を行い、ボランティアガイドも隣接の町村で繋ぎ、丸一日滞在していただくよう連携して滞在時間を長くするための取り組み・リピーター作りがされている。



河合町とは飛騨市河合町は同 ▲河合町での視察

じ町名であり、止利仏師伝説が縁となって歴史的にも繋がりが深い。聖徳太子が建立したとされる 46 ケ寺の一つである長林寺には、近鉄池部駅から徒歩 15 分以内で、町指定文化財の木造聖徳太子立像等、歴史を伝える貴重な仏像が保管されている。長林寺の創建に関して記された明細帳には本尊十一面観音像と吉兆天は、止利仏師作と記されている。

長林寺は現在、民家の敷地内にあることで一般公開されておらず建物自体も老朽化が進んでいる。

②薬草のまちづくりについて（宇陀市）

宇陀市の面積は 247.50 km²、人口は 26,400 人の市である。平成 18 年に大宇陀町、菟田野町、榛原町、室生村が合併し現在 20 周年の節目を迎える。室生寺など歴史街道の街並みで数多くの文化遺産を有し、豊かな自然資源に恵まれる。主産業は農林業、商工業と共に食品製造、毛皮革産業など特徴のある地場産業がみられる。

宇陀市は飛鳥時代から続く薬草の町で、日本書紀には日本最初の「薬獵」の行われた地であると記録されている。宇陀松山地区には江戸時代の森野旧薬園が現存し、宇陀市内には藤沢薬品初代社長の母方の家が薬草の館として現存しており、文化遺産・地域ブ



▲宇陀市での視察

ランドと位置づけ歴史的な背景を強みとした薬草のまちづくりとなっている。

薬草栽培では「大和当帰」といわれるせり科の薬草の栽培に力を入れ、生産者は現在 98 名であり、休耕地を主に活用し米の反収が 10 万円とすると大和当帰の栽培が上手な農家では反収 100 万になるなど生産者数含め、規模は年々拡大してきている。

プロジェクト開始より薬草栽培の技術支援から加工・商品化、販売まで様々な尽力で生産者が栽培を続けられるよう努力されている。今では育苗から出荷まで安定して継続される環境になっているのは行政の熱意ある取り組みの功績といえる。

6. 調査を踏まえた今後の取組みについて

① 河合町という共通点で友好都市提携を結ばれていることを活かし、止利仏師をはじめ史跡探訪、歴史探訪、古文書研究など社会教育の分野で文化交流を持続していけると感じる。そのためにもまずはお互いの河合町をアピールし、積極的な交流を行う取り組みが大切になると思われる。また、全国には歴史愛好家が数多くいるため、探訪ツアーなどの計画や、奈良県と飛騨市の歴史的な縁などを積極的に P R して関係人口や交流人口を増やしていけるのではないかと期待したい。

② 宇陀市の薬草の取り組みは稼げる薬草栽培事業となっており、ツムラやロート製薬という販路確保が現在も利用の研究や商品化を行い続けるなど、大きく延びている原因だと思われる。大和当帰の根は生薬の原料になるが、薬価ベースでは採算が合わないため、調剤薬局向けに高単価で取引してもらえよう市が交渉し、生産者が栽培を続けられるよう単価が満たない部分は市が差額を補助している。その原資はふるさと納税を活用しており、予算として年 200 万円ほどである。そのやり方が生産者を増加していく環境となっていると思われる。

また、薬草料理レシピのビデオ制作などで発信力もあり、全国に「薬草つみ」を観光資源としてイベントやワークショップを展開するなど、見習えることは多い。今後も薬草で飛騨市との地域交流を深め、持続することで全国展開し発展に繋がっていけると思う。